

代謝内分泌内科とは

代謝内分泌内科部長 佐藤 忍

代謝内分泌内科は、平成15年4月に新病院の全面開院と同時に新設されました。旧診療科である内科、循環器科、消化器科で診療を受けていた患者さまを引き継ぐとともに、当科の新設に伴い、病診連携（地域の診療所等との連携）等で紹介を受けた患者さまに受診していただいています。

主たる糖尿病診療では、国内外の最新臨床エビデンス（治療、根拠）を検討し、常により良い治療法を提供しています。具体的には、糖尿病治療の土台は食事療法ですが、経験豊富な栄養士が栄養相談に応じます。安易に経口糖尿病薬（飲み薬）を開始することを控え、食事療法のみで血糖を調整できる患者さまには、極力、体重の減量による体質改善と食事療法による治療を勧めます。服薬が必要な場合は、薬剤の特性を患者さまへ説明し、効果的な使用を重視しています。このような糖尿病の治療法は、患者さまの十年後、



二十年後を見据えて実施しています。

糖尿病は、インスリンが充分に分泌されないことにより、血糖値が上がる病気です。インスリンを投与し、管理していく治療法（インスリン療法）は、当科が最も得意とするところです。肥満2型糖尿病（注1）の糖毒性解除（将来的にインスリンから離脱）から1型糖尿病（注2）の強化インスリン療法（注3）にいたるまで、幅広く実施しております。

当科では、糖尿病だけではなく、

内分泌疾患全般にわたって高い水準と質を維持しつつ、患者さんを中心にした診療を提供することをめざしています。外科、泌尿器科、脳神経外科、小児科、産婦人科等と密接な連携をはかり、内分泌疾患の総合的診療を緊密な連携のもとに行うことを推進しています。また、多くの内分泌疾患は外科的な治療を必要としますが、治療後に各種のホルモンが欠乏してしまうこともあります。このような場合の適切な評価と治療方針の決定も当科で行っています。

【注釈】

注1 2型糖尿病

2型糖尿病は、代表的な生活習慣病の一つで糖尿病患者の90%以上を占めています。糖尿病の危険因子には肥満、運動不足、過食、ストレスなどがあげられます。しかし世の中には同じように不摂生な生活をしていても糖尿病になりやすい人とそうでない人がいます。その差を決めているのが遺伝因子なのです。

注2 1型糖尿病

1型糖尿病は、主に自己免疫によっておこる病気です。自分の体のリンパ球があやまって内乱を起こし、自分自

身のインスリン工場の大部分を破壊してしまうことで発病します。過去のウイルス感染がリンパ球の内乱のきっかけになっている場合が多いとされています、

注3 強化インスリン療法

インスリンの注射回数を増やし、健康な人のインスリン分泌と同じようにして、血糖をコントロールする方法

第15回 成人糖尿病教室

日時 平成17年10月25日（火）

受付 14時～

講演 14時15分～15時45分

場所 茅ヶ崎市立病院 2階講堂

内容 1 糖尿病と腎臓合併症
2 その他（理学療法士・栄養士・看護師による）

* 事前の申込は不要です。

参加希望の方は、直接会場へおい
てください。（先着100名）